

問1 インドとその周辺の年間降水量を示した統計において、ガンジス川の下流域などは年間降水量が1000mmを超える非常に多い地域として示されています。このように、インドの一部で特定の時期に降水量が急増する理由として正しいものを選びなさい。（2021年 福島県公立入試 類似）

1. 夏に湿った空気を蓄えた季節風が、海から陸に向かって吹くため。
2. 夏に大陸の乾燥した空気を運ぶ季節風が、陸から海に向かって吹くため。
3. 冬に冷たく湿った空気を運ぶ偏西風が、インド洋から吹き込むため。
4. 赤道付近で発生した上昇気流により、一年中季節を問わずスコールが降るため。

問2 原油の産出量が世界の上位4か国に入るほど多い一方で、国内での消費量が産出量の2倍以上に達しており、不足分を補うために4億トンを超える原油を輸入している国があります。このような資源事情を持つ国として、最も適切なものはどれですか。（2016年 福岡県公立入試 類似）

1. アメリカ合衆国
2. サウジアラビア
3. ロシア
4. アラブ首長国連邦

問3 1980年の韓国の総輸出額は約181億ドルでしたが、2018年には6000億ドルを超え、30倍以上に拡大しています。このような経済発展の背景と特徴を説明した文として最も適切なものはどれですか。（2022年 埼玉県公立入試 類似）

1. 国内市場の規模に限界があったため、海外市場をターゲットとした輸出主導型の経済成長戦略をとった。
2. 1980年代から一貫して輸出額が減少し続けていたため、2010年代に入り急激な円安誘導を行って輸出を回復させた。
3. 1980年時点で既に輸出品の半数以上が機械類であったため、その高い技術力を維持することで輸出額を維持した。
4. 広大な国土で生産される小麦や大豆などの穀物輸出が、総輸出額の飛躍的な増加に最も大きく寄与した。

問4 タイ、インドネシア、シンガポール、フィリピン、マレーシア、ブルネイ、ベトナム、ラオス、ミャンマー、カンボジアの10カ国が加盟している組織の現状について、誤っている説明を選びなさい。（2023年 茨城県公立入試 類似）

1. 東南アジア以外の国である日本や中国、韓国とも協力関係を築いており、首脳会議などの話し合いの場を持っている
2. 資源開発や工業化を背景に急速な経済成長を遂げており、世界の成長センターの一つとして注目されている
3. 域内での関税を原則として撤廃するなど、経済的な結びつきを強める「ASEAN経済共同体」を形成している
4. ヨーロッパ連合（EU）から全ての加盟国が離脱して移籍してきたことで、近年急速に加盟国数が増加した

問5 アジアの大陸東部や南部において、夏にインド洋などの海側から陸地に向かって吹き、その地域に大量の湿気をもたらして雨季を形成する原因となる風を何といいますか。（2023年 熊本県公立入試 類似）

1. 季節風（モンスーン）
2. 貿易風
3. 偏西風
4. シロツク

問6 西アジアから日本へと石油を輸送する航路の概要について、地理的な位置関係を説明したものとして最も適切なものを選択肢から選びなさい。（2023年 福井公立入試 類似）

1. アラビア海からインド洋を通り、東南アジアの狭い海峡を経て、南シナ海から日本列島へと至る航路
2. ペルシャ湾から太平洋を北上し、ベーリング海峡を越えて北極海から日本列島へと至る航路
3. 紅海からスエズ運河を抜け、地中海と大西洋を横断してパナマ運河から日本列島へと至る航路
4. インド洋から喜望峯を回り、大西洋を北上してヨーロッパを經由し、ユーラシア大陸を北側から回る航路

問7 東南アジアのある国では、1990年代末には原油などの資源が輸出の中心でしたが、近年では輸出総額の約4割以上を機械類が占めるようになってきました。このような産業構造の変化をもたらした背景として、日本企業の進出を促した現地の要因を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2026年 福岡公立入試 類似）

1. 日本と比較して1か月あたりの平均賃金が極めて低く、安価で豊富な労働力を活用できたこと。
2. 原油の産出量が急激に増加し、燃料としての輸出だけでなく精製技術による工業化が進んだこと。
3. 日本企業の進出が減少したことで、自国の資本のみによる伝統的な軽工業が急速に発展したこと。
4. 農業の機械化が徹底された結果、米や天然ゴムなどの農作物の輸出割合が以前よりも大幅に高まったこと。

問8 マレーシアが多民族国家として発展してきた歴史的・社会的な背景を説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2023年 沖縄公立入試 類似）

1. イギリスによる植民地支配などの歴史の中で、中国やインドなどからの移民が労働力として流入した。
2. 熱帯地域特有の気候を利用して、中国やインドから小麦栽培の技術を持つ人々が移住した。
3. 国民の大部分がキリスト教を信仰しており、その布教活動のために近隣諸国から多くの人が集まった。
4. 偏西風の影響で海洋貿易が盛んになり、ヨーロッパから大規模な移民団が定住した。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 夏に湿った空気を蓄えた季節風が、海から陸に向かって吹くため。	ガンジス川下流域などで降水量が多くなるのは、夏にインド洋などの海側から水分を多く含んだ季節風（モンスーン）が吹き込むことが原因です。この風が陸地で雨を降らせるため、この時期に降水が集中し、年間降水量も多くなります。反対に、冬の季節風は大陸から海へと吹く乾燥した風であるため、雨をもたらすことはほとんどありません。
問2	答え 1 アメリカ合衆国	アメリカ合衆国は、技術革新などにより世界最大級の原油産出量を誇りますが、同時に世界最大の経済大国として膨大なエネルギーを消費します。そのため、自国での産出だけでは国内需要をまかないきれず、大量の原油を輸入に頼っているのが現状です。これに対し、サウジアラビアやロシア、アラブ首長国連邦などは、産出量が消費量を大きく上回る「輸出型」の資源国として知られています。
問3	答え 1 国内市場の規模に限界があったため、海外市場をターゲットとした輸出主導型の経済成長戦略をとった。	韓国は日本と同様に資源が乏しく、また自国の市場規模も限られていたことから、原材料を輸入して製品を加工し、それを海外へ売る加工貿易や輸出主導型の経済発展を重視しました。この戦略によって、機械類などの工業製品を世界中に輸出できるようになり、1980年から2018年にかけて総輸出額を劇的に増加させることに成功しました。
問4	答え 4 ヨーロッパ連合（EU）から全ての加盟国が離脱して移籍してきたことで、近年急速に加盟国数が増加した	ASEANの加盟国はあくまで東南アジアの国々に限られており、ヨーロッパ連合（EU）から加盟国が移籍してきたという事実はありません。ASEANは日本、中国、韓国と「ASEAN+3」といった枠組みで協力したり、域内での関税撤廃を進めて経済的な一体感を高めたりすることで、世界経済における存在感を高めています。
問5	答え 1 季節風（モンスーン）	アジアの気候に大きな影響を与えるこの風は、夏と冬で吹く方向が逆になるのが特徴です。夏は海から湿った空気を運ぶため、南アジアや東南アジア、東アジアに多量の雨をもたらす、稲作などの農業にも深く関わっています。
問6	答え 1 アラビア海からインド洋を通り、東南アジアの狭い海峡を経て、南シナ海から日本列島へと至る航路	日本の石油輸入は、地理的に西側に位置するアラビア半島周辺の国々に大きく依存しています。タンカーは、アラビア海から広大なインド洋を東へ進み、マレー半島付近の狭い海域（マラッカ海峡）を通過して、日本の南側に位置する南シナ海を経由して運ばれます。このルートは日本のエネルギー供給の命綱と言えます。
問7	答え 1 日本と比較して1か月あたりの平均賃金が極めて低く、安価で豊富な労働力を活用できたこと。	東南アジアの国々では、日本の10分の1程度という低い平均賃金を背景に、生産コストを抑えたい日本企業の進出が激増しました。これにより、従来の資源輸出に頼る構造から、機械類などの高度な製造業を中心とした工業化が達成されました。この現象は「世界の工場」としての役割が周辺国へ広がった結果といえます。
問8	答え 1 イギリスによる植民地支配などの歴史の中で、中国やインドなどからの移民が労働力として流入した。	19世紀以降、イギリスの植民地時代にスズの採掘や天然ゴムのプランテーション開発のための労働力として、中国やインドから多くの人々がマレー半島に移り住みました。これが、現在のマレー系、中国系、インド系が共生する多民族社会の基盤となりました。なお、マレーシアは熱帯に位置するため小麦栽培には適さず、主な宗教はイスラム教です。